

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 建築物環境性能評価システムマニュアル2016 (使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 中村区名駅南四丁目計画	階数	10
建設地	名古屋市中村区名駅南四丁目709番の一部、710番、711番、712番の一部	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	180 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2022年9月28日
敷地面積	466 m ²	作成者	
建築面積	366 m ²	確認日	2022年9月29日
延床面積	2,906 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.4 ★★★★★★☆☆☆☆ ★: S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★	☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 30%: ☆☆☆☆☆ 標準計算 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.5
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.0	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.6	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 外装は、周囲にある同じくらの高さのものと色合いを揃えて調和するようにしています。 内装は、名古屋市の人にやさしい街づくりの推進に関する条例に適合するよう極力、段差ではなく緩勾配の傾斜路とし、共用廊下に転回スペースを設ける等の工夫を行いました。	その他 特にありません。	
Q1 室内環境 断熱補強を行い外部の影響を受けにくくしました。 また、仕様建材に原則JIS及びJAS規格F☆☆☆☆のものを使用しています。	Q2 サービス性能 ゴミ置場や緑地のメンテナンスを行うための散水栓を設けて、維持管理がしやすいようにしています。	Q3 室外環境(敷地内) 大通りの歩道沿い、かつ日光が当たりやすい南側に緑化を設けて、まちなみや景観に配慮しました。
LR1 エネルギー 高効率設備を導入し、環境負荷への配慮しました。	LR2 資源・マテリアル 躯体+鉄骨+仕上材のディティールを採用しています。	LR3 敷地外環境 外部に漏れる光において、住戸内にはカーテンレールを設置、外構を含む共用部は深夜に減光する照明を設置しています。 また、広告用の照明は採用していません。(広告看板等はありません)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)中村区名駅南四丁目計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目			評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策					3.7
LR1	エネルギー		4.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮		3.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.05	
2. 自然共生					3.2
Q3.1	生物環境の保全と創出		3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮				
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上				
3. 循環型社会					2.7
LR2.1	水資源保護		3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減		2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2		3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.7



2. 自然共生

評価点 = 3.2



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ 3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。